

第4回鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 会議概要

- 日 時 令和5年9月19日(火) 午後3時00分から午後5時15分まで
- 場 所 鶴岡市役所6階大会議室
- 出席者 別紙委員名簿のとおり(委員14名中8名出席)
 - 出席委員 浅野憲周委員、市川至音委員、鎌田剛委員、
クランプアレクシス委員、平智委員、森木三穂委員、屋代高志委員、
大和匡輔委員
 - 欠席委員 菅原剛委員、清野康子委員、瀬尾利加子委員、安達忠士委員、
鈴木淳士委員、高谷時彦委員
- 傍聴者 なし
- 協議題等 (1)大綱別の施策の方向と5つの加速化アクションに基づく主な施策(案)について
(2)「未来創造のプロジェクト」(案)について
(3)総合戦略(骨子案)について

(1)大綱別の施策の方向と5つの加速化アクションに基づく主な施策(案)についてに関する意見等

- ・主な施策について、完了したもの、継続しているもの、および新規に開始する予定のものを、それぞれのフェーズが分かるよう色分けして管理しているか?
→(事務局)明確に色分け等はしていない。総合計画は今後5年間に実施するもの記載しており、進捗状況には、毎年度ローリングで策定している実施計画で実施状況の把握と評価を行っている。
- ・総合計画における『5つの加速化アクション』と総合計画本文の主な施策との間で、どのように優先順位が定められているか?たとえば、これらの『5つの加速化アクション』を先行して実施し、その後に他の施策を実施するというように、優先的に実施する仕組みがあるのか。
→(事務局)5つの加速化アクションは優先順位を高く実施をしていくが、予算は年度ごとに承認をいただきながら、色々な事業の進捗等を見ながら実施をしていくことになると思う。
- ・この『5つの加速化アクション』が優先事項とされるならば、明確な目標と現在の進捗状況を評価可能な基準の設定が重要だと考える。このような基準があれば、進捗が具体的に測定可能になるので、次の行動へのアクションを効果的に策定しやすくなる。
- ・奨学金返済支援事業は素晴らしい取り組みだと感じるが、市民への認知度が気になる。鶴岡市内の高校生はこの事業について知っているのか? 実際の利用者数などのデータがあれば知りたい。もし高校生や教育機関に情報が届いていなければ、非常に勿体ないと考える。ぜひとも、この事業の周知に努めていただきたい。

→ (事務局) 奨学金返済支援事業(通称「つるおかエール」)、令和3年度に始動し、本年度で3年目の事業である。県の事業と合わせて、鶴岡に帰ってきた場合に、一定の条件を満たすと201万6,000円までを支援するという内容である。4月に保護者向けの説明会等で全部の高校にもすべてチラシ等も配布しており、3年目ということで周知自体はかなり進んできたと感じている。令和3年度は、最初の年ということもあり、申請は90件ほどで、令和4年度以降は概ね平均で50件ほどの申請が来ているというような状況である。概ね申請いただいた方については、ほぼ受付している状況である。

・子育て世帯の経済的負担と心身的負担を軽減について、現在ファミリーサポートサービスを利用しているが、利用希望日の1週間前までの電話連絡が必要となっている。一方、学童保育では、利用の前日、かつLINE等のSNSを通じた連絡が可能となっている。もしファミリーサポートもスマートフォンを活用して簡単に予約や変更ができるようになれば、子どもが多い家庭や乳幼児のいる家庭にとって非常に便利になると思う。ぜひそのような仕組みの利用促進を検討していただきたい。

→ (事務局) 「資料3 総合戦略見直しのポイント」に、病児保育・一時預かり利用予約の電子申請という項目があり現在検討中である。担当課でも一時預かり等の利用予約、ファミサポ等の電子申請、電子受付等をしたいという意識はあるが、業務の棚卸しがまだ必要な状態になっており、今後実施に向かって検討していく。

・暮らしと防災の(2)地域の防災・防犯力の強化のに関して、昨年末も上郷地区で災害が不幸にもあったので、昨今の気候変動で特に何か後期5ヵ年で見直すべき視点はないのか検討していただきたい。

・コロナや自然災害だけではないリスクが顕在化しており、いきなり職を失ってしまったりとか、今までの日本ではあまり経験してないようなことがいろいろと出てきているので、ソーシャル・レジリエンスにも触れていただきたい。

→ (事務局) 現在の案段階では箇条書きということもあって非常に端的な記載になってしまっているが、文章化した際には細かい書き込みをする予定となっている。土砂災害等をもっと詳しく記載をすべき部分等については、専門委員会の方のご意見ということで反映をさせていただきたいと思う。

・今後5年間、気象変動が安寧になっていくかということと必ずしもそうならない感じもするので、そういう総論的な記載があってもいいと思う。

・前半の5年のことを抽象的に書いても意味がないかもしれないが、大きなことに関しては、中間ではこうだから、後期の5年では特にこういうところに力を入れてるため計画の見直しを行ったというように前文を付けておくと後で参考になるケースがあると感じた。

(2)「未来創造のプロジェクト」(案)についての意見等

若者・子育て世代応援プロジェクト関連

- ・「若者・子育て世代応援プロジェクト」に関して、新しく「こどもまんなか」というコンセプトが入ったが、施策の方向を見ると子どもというより、18歳以上や若者、親世代の応援という感じがする。子どももターゲットに入っているのか。
→（事務局）「こどもまんなか」の取組は、今年4月にこども家庭庁が発足し、全国一律で取り組んでいかないといけないので、そのことを一番最初に入れる必要があるということで盛りこんだ。
- ・若者たちが集まる場所が全くない感じがする。子どもや高齢者向けのイベントはあるが、20代と30代向けのイベントが全くないなというようにいつも思っている。
→（事務局）年代を区切っているわけではないが、どちらかというとな配の方が来やすいイベント、子どもが来やすいイベントとなってしまっているの、市役所としてもイベントの組み方や募集の仕方を考えていきたいと思う。

全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト関連

- ・障害者等の災害時の避難行動の策定をゴールにするのではなく、実際に地域の中でそれを実践して検証・改善し、サイクルを回していくことを重視してほしい。
- ・社会教育等との連携も進めてほしいが、学校教育との連携も重要である。特に防災は小学校区単位で避難所もあり連携がしやすい。
- ・場所も環境も食もあるの、「こどもホスピス」という終末期医療のみではない施設を考えてみても良いのではないかと。集める人数としては少ないかもしれないが、安心してケアができるのは田舎の良さと思っている。それが包括ケアとも繋がっていくと思う。
- ・小学校で引き渡し訓練というものがある。そのような取組もあるので学校機能をも使うというのはすごく良いと思う。
- ・例えば脳梗塞や心筋梗塞やだと多分日本海病院に行っていたら間に合わないの、そういうものを荘内病院が担うとともに、高度医療やがんの治療も含めて日本海病院ともっと連携するようなことがあったらいいな感じている。

城下町つるおかりブランディングプロジェクト関連

- ・「歴史的建造物の保存活用と歴史的景観の保全」に関する取り組みについて、例えば鶴岡公園では、現在の西側にある芝生エリアは40年前ではテニスコートが並び、現在とは異なる姿であった。時代の流れと共に変化して来ている状況ではあるが、まだまだ改善する余地があると考えられる。例えば、現在の公園北側に砂利石の広場があるが、これを芝生に変えた場合には、市民や観光客が鶴岡公園でより快適に過ごすことができ、街の中心地の憩いの場として機能するかも知れない。街のヘソに人が滞留する拠点機能が強化されることで、中心街の人通りの増加に

も寄与するかも知れない。

- ・鶴岡公園周辺では、電柱や電線の地中化が一部進行しているものの、完了していない場所も存在する。公園周辺の電柱・電線は優先的に地中化することで景観が向上し、写真映えするフォトジェニックな空間を創出できれば、鶴岡のブランド価値向上にも寄与すると考える
- ・鶴岡公園の周りには高校があり若者がたくさんいるところだが、公園には誰もいない。タクトまで行って勉強をしている。そういう現状を踏まえて、例えばプールの場所に図書館があった方が良いと思う。そこへカフェを入れた方が良い。病院も近くにあるので、子ども達が検診帰りに、公園に寄れるようなやすらぎの場をつくってもらいたい。
- ・鶴岡公園や歴史ある羽黒地区の松ヶ岡などの電柱を地下にするなど、こういう街にしたいんだと子どもたちに伝え、一旦鶴岡市外に行っても戻ってきたいと思えるように、わかりやすい形でハード整備してもらいたい。

産業強化イノベーションプロジェクト関連

- ・「「創造的起業家」の育成や新規創業を支援します」という施策について、野村総合研究所の支援を受けて実施されている鶴岡イノベーションプログラムは、非常に価値のある取り組みだと考える。次年度以降もぜひこのプログラムを継続いただきたい。また、第2期生以降の参加者と継続的な縦の連携が図られるような仕組みがあると、より有機的なコミュニティ形成が期待できるかも知れない。一方、現在のイノベーションプログラムの課題として、卒業生間のオンラインでの交流は盛んになって来ているが、対面で集まる場所が鶴岡は十分でないという声が出ている。例えば酒田市にある「産業振興まちづくりセンターサンロク」のように、様々な人が集い、対話ができる場が鶴岡にもあれば、さらに新たな出会いや集う楽しみが提供されるため、地域コミュニティの活性化に繋がると考える。
- ・企業誘致のことが書かれているが、今この地域の中小企業の方たちがものすごく困っている状況の中で、行政と地場のもともとある中小企業との連携、より産業振興に向けて何か一緒になってやっていく具体的なものや参考事例があれば教えてほしい。

輝く女性活躍推進プロジェクト関連

- ・鶴岡市では多種多様な事業やイベントが展開されているが、全体的に女性の参加率が低い傾向にあるような気がする。イベントタイトルや対象者に、「女性向け」という文言が含まれていないと、女性は参加をためらいやすいと言う話を聞いたことがある。例えば「女性向けプログラミングスクール」といったように、イベント名に明示的に「女性向け」を加えることで、女性の参加を促進できる可能性があり、検討していただきたい。
- ・文章の「男女」という表現はできるだけ使わない方が良いと思う。「市民が隔たりなく」など、

色々な表現は使えると思う。プロジェクト名はこのままでも、中身は、みんなでやるんだというようなことを書けば、自ずとその意味が伝わるのではないかと感じた。

- ・若者・子育て世代応援プロジェクトと包括ケアにも重複するかもしれないが、進学率は女性の方が高く、県外に出るのが圧倒的に女性の方が多いというのが分かった。やはり女子高生も含めて女性をターゲットにする必要があると思う。
- ・「男女が家庭や地域」という表記で、今は男女ではない人たちもいる世の中で、それが認知されてきている。ジェンダー平等など色々な言葉を聞くと思うが、ここを少し変えていったらより癖がなくなってくると思う。

地域国際化SDGs 推進プロジェクト

- ・「ゼロカーボンシティの実現に向けた取組」や、「持続可能な社会づくりの担い手を育む」という記述を、もう少し具体的に書けないか。他のプロジェクトの書き方と大分レベルが違う書き方になってしまっていると感じる。

その他意見

- ・総合計画には、常に新たな課題や施策を取り込んでいけるとよいが、都度対応はなかなか難しい。例えば私が所属する会社では、注意すべき新しい課題を定期的にピックアップして簡易的なリストを作成している。委員会等のタイミングでこのリスク内で重要性の高いもののみを抽出し、実際に本施策への追加要否を決めている。ご参考までに。
- ・資料を見やすくするために、ユニバーサルデザインのフォントを活用しても良いと思う。